

令和4年度農作物病害虫発生予察技術資料第5号

令和4年(2022年)10月4日
山口県病害虫防除所

野菜・花き類のシロイチモジヨトウの防除の徹底について

夏季よりシロイチモジヨトウの発生が多い状態が続いていますので、防除対策の徹底をお願いします。

1 発生状況と今後の予測

- (1) 9月下旬の巡回調査(キャベツ)では、発生ほ場率30.0%(平年4.0%)、寄生株率0.8%(平年0.1%)で平年に比べ多かった(図1、2)。
- (2) 山口市大内のフェロモントラップによる9月の誘殺数は、37頭(平年69.5頭)で平年並みであった(図3)。
- (3) 福岡管区气象台発表(9月27日)の1か月予報では、気温は高いとされ、本虫の活動に好適な気候が続くことにより、今後の発生が助長されると見込まれる。
- (4) 本虫の幼虫は広食性で、ネギ、キャベツ、はなっこりー、イチゴ等の野菜類やカーネーション、キク等の花き類で被害が増加することが懸念される。

2 防除対策

- (1) ほ場をよく観察し、卵塊や被害部位(茎葉、花蕾)等は見つけ次第除去するとともに適切に処分する。
- (2) 防除適期(若齢幼虫期)に、薬剤散布を実施する。
- (3) 施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い4mm以下)を設置し、成虫の侵入防止に努める。
- (4) 防除薬剤は、農作物病害虫・雑草防除指導基準を参考に選定する。
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22316.html>

3 防除上注意すべき事項

- (1) 茎や花蕾に食入した幼虫や、発育が進んだ幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、適期防除を心掛ける。
- (2) 薬剤散布後には効果をよく確認し、被害の拡大が認められる場合には、追加防除を実施する。
- (3) 薬剤抵抗性を発達させないため、IRACコードを考慮し、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (4) 薬剤散布の際には、農薬使用基準を遵守し、周辺作物への飛散を防止する。

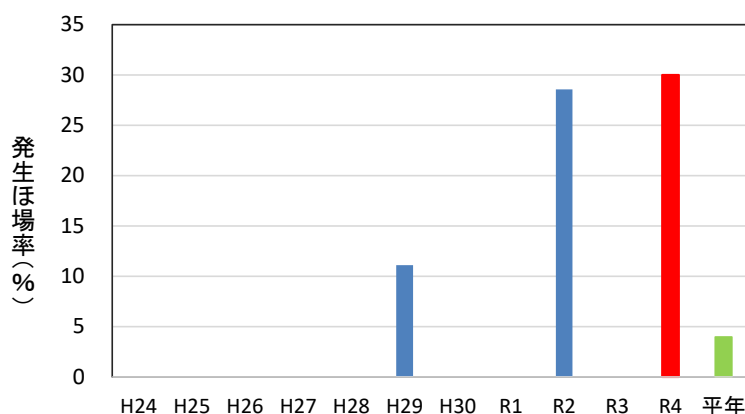


図1 キャベツ調査ほ場におけるシロイチモジヨトウ発生ほ場率の年次比較(9月下旬)

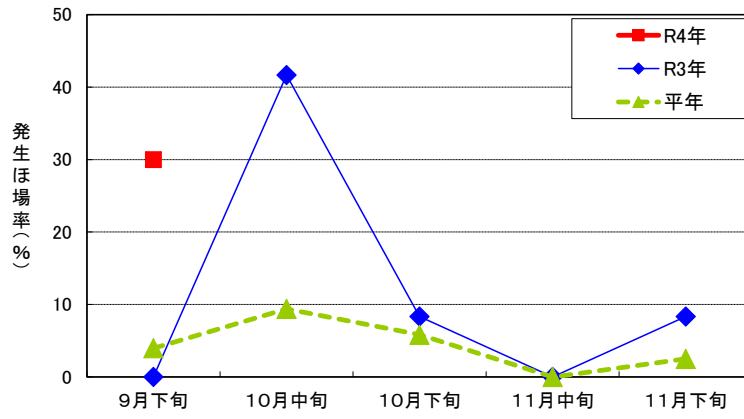


図2 キャベツ調査ほ場でのシロイチモジヨトウの発生推移

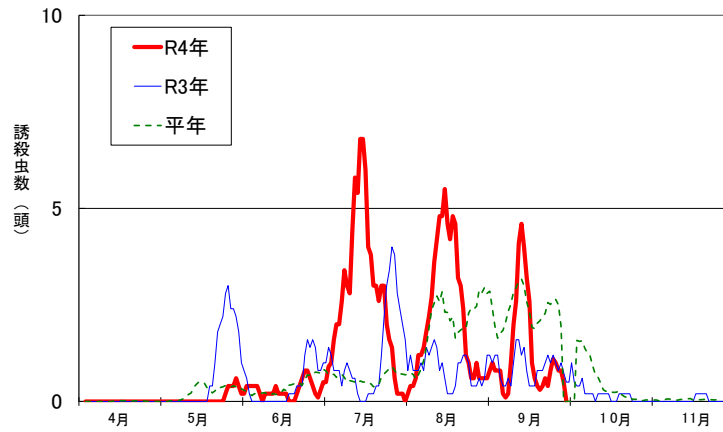


図3 シロイチモジヨトウ誘殺数の推移 (山口市大内)



写真1 シロイチモジヨトウの卵塊 (キャベツ)



写真2 シロイチモジヨトウの老齢幼虫 (体長 3 cm 程度)